

テーマ：「市長就任2期目を迎えて」

稲村 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。

月に一度お届けしています、このコーナー、と言いましても、実は、私がお届けするのは、8月以来、なんと4ヵ月ぶりなんです。

9月から11月までの放送は、市立尼崎双星高校、市立尼崎高校、そして、市立琴ノ浦・城内高校の各放送部の皆さんにお願いして、お届けしていました。皆さん、お楽しみいただけましたでしょうか？ やっぱり「初々しい高校生の放送の方が良かったわ」なんて言う方もいらっしやるかもしれませんが、今回から、また装いも新たに、わたくし稲村が、このコーナーをお届けしてまいります。

今回から、タイトルを「ひと咲き まち咲き あまがさき」に変更いたしました。皆さん、もうさすがに「聞いたことある」と言う方がたくさんいらっしやると嬉しいのですが、この「ひと咲き まち咲き あまがさき」は、今、尼崎市で進めています平成25年から10年間の、まちづくりのほんとは基本になる「総合計画」のキャッチフレーズです。

尼崎は、皆さんもご承知のとおり、単なるベッドタウンというまちではありません。古くからの歴史があり、文化があり、そして、企業の色んな技術が息づく産業都市でもあります。そして何よりも、色んな活動してくださっている地域の皆さんの力。そういった尼崎の魅力や強み。それがしっかりと、私たちの一人ひとりの成長につながっていく。それがまた今後は、まちの力になっていく。そしてそれが、次世代にもしっかりと実を結び、種を落として引き継がれていく。そんな思いを込めて使っているキャッチフレーズです。

このコーナーでも、これからそんな活躍している尼崎の色んな方々や、まちの魅力を、引き続きどんどんご紹介していきたいと思っていますので、皆さん、今後とも改めて、よろしく願いいたします。

さて、皆さんもご存知のとおり、先日の11月16日、尼崎の市長選挙が行われました。わたくし稲村和美、無事再選をいたしまして、12月12日から、第25代尼崎市長として、引き続き尼崎市政、重責を担うこととなりました。わたくしも気持ち新たに、しっかりと頑張っていきたいと思っております。

今回は、2期目のスタート、初めてのこのラジオの番組の収録になりますので、今後の尼崎について、皆さんに色々とお伝えができればと思います。

尼崎市では今、「質の改革」をより重視して、先ほどオープニングでもお話をしました「ひと咲き まち咲き あまがさき」の新しい総合計画と、行財政改革計画に基づき、都市の体質転換を目指して、「定住・転入の促進」や「まちの魅力増進」、健康や就労を始めとする「市民の皆さまの生活支援」、いわば改革の第2ステージに取り組んでいます。

今回の市長選挙にあたっては、こういった都市の体質転換を目指す改革、確かに地道な取り組みが多いので、すぐに結果が出る取り組みばかりではありません。そういう意味では、非常に「踏ん張りどころ」で、今がしんどいところではあるんですけども、でもやっぱり、これをしっかりやり抜くことができるか、これが非常に尼崎の未来を大きく左右するということをお話いたしました。そして、この改革をしっかりやり遂げた先にこそ、確かな未来が切り開けるんだ、ということを訴えてきました。

尼崎市というまちは、時代の先端を走ってきた分、他の都市に先んじて人口減少や高齢化、また、公共施設が一斉に老朽化・更新の時期を迎えるなど、都市の課題に早く直面している「課題先進都市」の側面を持つまちだと思っています。けれども尼崎市は、公害の問題ばかり、本当に多くの課題を、地域の皆さん、企業の皆さん、そして、行政も一緒になって、みんなで乗り越え、解決してきた、歴史のあるまちです。

こういった様々なまちの課題から決して目をそらさずに、サボらずにしっかりと向き合っていくこと。その解決に向けて、みんながもう一度それぞれ成長しながら、そして力を合わせながら、頑張っ取り組んでいく。そういったなかから、やはり「市民の自治」、そして、わがまちへの愛着や誇りというものが育まれていく、と思っています。

そして、そういったところに一緒に力を合わせ、汗をかいていくことで、尼崎の市役所の行政のレベルアップにもつながっていくんだ、と考えています。

尼崎市は、平成 28 年に「市制施行 100 周年」という、本当に大きな節目を、今、目前に控えています。これは、単に 100 周年をお祝いするというだけでなく、私たちが、この 100 周年までの間に、多くの人たちの力でこの尼崎市が発展してきたということ、改めて振り返って感謝をする、という機会でもありますし、尼崎市、「灯台下暗し」で、実は普段私たちが見過ごしがちな多くの歴史・文化、そして、尼崎の魅力や強み、そういったものを改めて再発見をして、私たちの自信をしっかりと強くしていく。そして、私たちの愛着や誇りというのを、今度は 101 年目以降の、私たちのまちづくりにしっかりとつなげていく。そういった 100 周年にしていきたい、と思っております。

尼崎市は、先ほど申し上げたように「課題先進都市」の側面を持つまちですけども、私は尼崎市の、このまちの持つ力を信じています。しっかりと未来を見据え、足元は一步一步着実に。時代の変化に対応した未来志向のまちづくり、尼崎市なら絶対にやれると思っています。また、その先頭に立って、私も全力を尽くしていきたいと思っています。

市民の皆さんと一緒に、こういった尼崎市の持つ「市民力」、そして、市民参加や市役所改革をしっかりと進め（せ）ていくなかで、「職員力」もしっかりとつけていって、この「市民力」と「職員力」が合わさって、都市の課題を、他に先んじて解決する「課題解決先進都市」。こういった尼崎市を目指していきたいと思っています。

そういう意味で、尼崎市が「課題先進都市」から「課題解決先進都市」になれるかどうか、そういった取り組みのプロセスを、私たち自身の成長や、まちへの誇りにつなげていけるかどうか。私たちが今取り組んでいる、この「ひと咲き まち咲き あまがさき」のまちづくりと、行財政改革、ほんとにこの「財政健全化」、しっかりと借金の残高を減らしていくということ

と並行して、色んな取り組みを進めていくというのは、決して簡単なことではないのですが、それをしっかりやりきれるかどうかで、本当に私たちの未来が大きく変わってくると思っております。

私は必ず、尼崎市が他都市に先んじて、モデルになるような取り組みを進めていけると思っていますし、本当にこの100周年という大きなチャンスも、しっかりと活かしながら、皆さんと一緒に、そういった取り組みを進めていきたいと思っています。

今回の選挙公約の中でも、一つはやっぱり「子供たちの成長をしっかりと支えていきたい」ということで、例えば学校の空調整備など、しっかりやっていきたいということも掲げました。もちろんこれは、それに合わせて、子供たちの学力を支えていくような、そして、子供たちの「社会力」を支えていくような、色んなソフト面でも取り組みを進めていきたいという、決意表明でもありますし、もっと言いますと、こういった「学校」というのを、もっともっと地域にも開かれた施設として、活用していきたいと思っています。地域の皆さんの活動拠点としてはもちろん、地域の皆さんの力がまた、子供たちにもしっかりと支えになっていくような、開かれた学校づくりも、併せてやっていきたいと思っております。

また、そういった地域の力、例えば、選挙戦の間でもすごくお声をいただいたのが「自転車の不法駐輪」。「もう何とかならんかな」というお話も伺いました。そういった、地域でみんなが力を合わせて、そしてもちろん、市役所も一緒になって、知恵を絞って取り組んでいかなければならない課題が、まだまだたくさんありますので、これからも、しっかり「市民力」と「職員力」を発揮して、そして私たちが「やっぱりこのまち、良くなったな」という実感につながるような「課題解決」の取り組みを、しっかりと進めていきたいと思っております。

みんなが支え合い、誰もが居場所と出番・役割を持って成長し、活躍できるまち。そしてそれが、まちの魅力に、未来の力になっていくまち。こういった「ひと咲き まち咲き あまがさき」のまちづくり、確かな未来の実現に向けて、私も全力でがんばってまいります。

皆さんには、ぜひとも引き続きのご指導・ご鞭撻をいただきますとともに、一緒にこのまちづくり、進めていただきますように、心からお願いいたします。

次回の放送もお楽しみに。

以 上